コウモリガ

樹木の幼木や低木の幹に潜るイモムシ（幼虫）．最大長約60mm．体は黄色で，茶色の斑紋がある．幹に穴をあけ，穴の入り口を糞や木くずを糸で綴ったかたまりでふさぐ．
キリ，スギ，ポプラ，ハンノキ，リンゴなどの小さな木で被害が起きる．木を衰弱したり，木材の質の低下につながる．樹皮をぐるりと食害することがあり，この場合は木が枯れる．

【生態】
キリ，スギ，ポプラ，ハンノキの他にウツギ，クリ，ナラ，プラタナス，ヤシャブシ，ヤナギ，ライラックなど様々な樹木につく．
卵で越冬．翌春，孵化した幼虫は草の茎に潜る．草を食べてある程度成長し，６～７月に樹木に移動して加害する．幹の地際よりも高いところに穴を開けて潜る．幼虫は幹の中に垂直にトンネルを掘り，入り口を木くずや糞のかたまりでふさぐ．ときに樹皮下をぐるりと穿孔することがある．８月上旬頃，穴を糸でふさいで蛹になる．蛹は孔道内を自由に移動できるという．夏から初秋に蛾（成虫）になる．雌成虫は夕方，飛び回りながら卵をばらまく．１雌平均約5000個の卵を産む．

【被害と防除】
幼齢林でときに多発するが，何年も継続した例は知られていない．有効な予防方法は確立されていない．被害木を処分し，植え直した方がよいと考えられる．
緑化樹では糞の塊を取り除き，穴から針金を入れて中の幼虫を刺し殺す．

【その他】
よく似た害虫にキマダラコウモリガがある．この種は幹の地際付近に潜る．

【文献】
1994．五十嵐正俊．コウモリガ．小林富士雄，竹谷昭彦，編集，森林昆虫，総論・各論: 239-241．養賢堂，東京．（形態，生態，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

コウモリガ shogarui/koumori/
kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/10/6.